

市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会（市街）
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月18日（月）18時30分～20時00分 ・市民活動センター 多目的室
所管部課名	企画財政部企画課
<p>【概要】</p> <p><出席者> 市：企画財政部長、建設部長、教育部参与、議会議務局長、財政課長、企画課長 事務局（企画調整係） 住民：8名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 企画財政部長挨拶 3. 説明 4. 意見交換 <p>【住民】</p> <p>人口減少問題は深刻であり、老年人口も多いことから見通しが暗いと感じる。その中で高校生の意見も取り入れていきたいということで、若い人の意見が活かされればいい。 「新しいコミュニティ」というキーワードで様々な施策が進んでいるようで、素晴らしい考え方だと思う。新聞等にも多く取り上げられており、サークルや趣味の集まり等緩やかなつながりが注目を集めているようだ。旧来の自治会は伝統あるコミュニティであるが、アンケートをとると、敷居が高いという意見や特定の人のみが参加しているという意見を持つ人も多くいて、これは事実だと思う。マイナスイメージを持つ人も多いとは思いますが、自治会にはぜひ加入して欲しい。</p> <p>【事務局】</p> <p>政策推進室で、「新たなコミュニティ」を創出するための施策に取り組んでおり、気楽に付き合えるサークルをつくっていきこうと取り組んでいる。コミュニティはもちろん伊達市民のためではあるが、将来的には移住者に対して発信していけるものにしたい。伊達市が、西胆振での施策の窓口となり、伊達市を紹介する際にコミュニティの紹介もしていきたい。 自治会に関しても、多くの方に加入してもらいたいし、自治会活動を支援するサークルをつくっていききたいと考えている。</p> <p>【事務局】</p> <p>総合計画については、9月から市民によるワークショップを実施している。現時点ではまだ意見をまとめる段階にはないが、若い人からは「地域のまちづくりの核となるのは自治会である」という意見も挙がっている。現在自治会内の情報伝達手段は回覧板や電話であり、共働きが多い若い人には不便であるので、LINE等のSNSやメールにすれば自治会加入を促進できるのではないかという意見があった。また、高齢者も携帯電話を持っている人が多いので、若い人が高齢の自治会役員に操作方法を教えることで、つながりができるのではないかと、といった意見も出た。 「新たなコミュニティ」の取組を伊達市は試験的に進めているが、決して自治会がこのまま衰退していくと考えている訳ではない。様々な切り口の中でまちを支えるコミュニティの基礎となる自治会を維持することも、取組を進める上では重要なポイントである。この懇談会の出席者の多くは自治会役員である。自治会によっては若い人の加入が進まない、なり手がいないという悩みを抱えているかと思うが、独自の取組や若い人への要望などがあれば、</p>	

意見を聞きたい。自治会だけでなく、他の切り口でも構わない。

【住民】

先日13自治会で、第七次総合計画に向けた市街地区の活性化について役員で協議した。市街地区は、商店街の移転・閉店・撤退等により空洞化が進んでいる。市街地区に店を誘致する方法として、商店街の近代化や駐車場の整備、道路整備が挙げられる。特に冬場は融雪剤の散布が行き届いていないと聞いており、また歩道に傾斜があり歩きづらいという声も聞く。こうしたことを改善しないと、特に高齢者には街に来てもらえないのではないかと。市街地区の活性化について、総合計画内で検討して欲しい。

経営者のモラル教育も大事だと思う。客に対して頭を下げない店主がいる。コンビニエンスストアでは「いらっしやいませ」「ありがとうございます」という挨拶が徹底されている。こうしたモラルの面を直して、魅力的な経営をしてもらうことが必要だと思う。

少子高齢化が進み、人口減少をいかに食い止めるかが重要であり、そのためには企業誘致などが考えられるがこれまでの取組は見えない。ここ20～30年の間、新たな企業は1つも誘致されていない。伊達市が自ら企業誘致に乗り出し、住民の知恵を借りながら取組む必要があるのではないかと。人口をできるだけ減らさないようにする工夫が最終的には必要だと思う。現在は、地元で安定した企業がないため、高校を卒業した若い人は大都市へ出ていってしまう。安定した企業を育てることも大事であり、地元住民に評価される企業にならないと、いずれ離職されてしまう。今後は企業誘致が重要視されると考え、企業誘致はどのくらい進んでいるのか教えていただきたい。

市長が頻繁に財政面の見通しは明るいと話しているが、それは事実なのか。自治会内では心配する声がある。大型事業が続々と進められており、図書館や火葬場の整備、市役所の耐震問題等、今後も取り組むべき事業が多くあるが、財政にゆとりはあるのか。

何十年も要望していた紋別川の整備を去年ようやくしてもらい、安心して過ごせるようになった。以前は雨が降るたびに寝られない生活をしていた。命や財産を守ることも伊達市の重大な使命だと考えるので、災害対策にもう少し前向きに取り組んでもらいたい。また、伊達市の対応にはスピード感がない。台風18号によって川の整備が必要になり、来年の雪解けも控えており非常に心配である。台風18号で川の一部が決壊したが、以前ほどの雨ではなくとも雪解け水と相まって決壊し、広範囲に被害が出るのではないかと。私たちの要望がなくとも、伊達市は現地を見ているかと思うので、早く対応して欲しい。周辺住民は安心できないので、何か見通しがあるなら聞きたい。

【事務局】

企業誘致については、20年ほど前に長和地区に工業団地、松ヶ枝に中小企業団地を整備し、市外の企業を訪問して働きかけてきた。しかしここ数十年は経済状況が悪く、伊達市に進出してくれる企業は1つもなかった。ただ、現段階ではっきりとは言えないが、2社ほど進出してくれる企業が出てきた。長和の企業団地ではないが、伊達市に進出を考えている。

財政状況について、現市長が当選したときは最悪であったが、その時と比べると相当良くなっている。市長の当選後に行財政改革を行い、調整基金も徐々に増え、施設も整備されてきた。今現在の財政状況は当時と比べると相当良いが、今後は人口減少も考えられるため締めていかなければいけない状況である。

【事務局】

河川事業に関して、紋別川の土砂取りは予算の制限がある中で、危険なところから順次進めていく。気門別川と長流川は北海道の川なので、道に要請はしている状況である。気門別川の土砂取りは近く行われるかと思う。

台風18号で紋別川が洪水を起こしてしまった原因は、国有林内で起こった崖崩れで流れた木が関内の大橋に引っかかってしまったことにある。この対策として、北海道が上流部に砂防ダムを設置することになり、早ければ年度内に着工する予定だ。砂防ダムができれば、木が詰まることは解消されると思う。

道路事業に関して、国の補助金が以前よりも付かない傾向にあり、出足が遅くなっている。

道路の勾配について、建設部では「バリアフリー計画」として、障がいを持っている人でも使いやすい道路にする計画を進めており、国の補助金も付きやすくなるのではないかと考えている。

今年はまだ融雪剤を散布しておらず、国道や道道のように十分に散布することは難しいものの、順次散布していく予定である。いずれにしても、満足する状態までは整備できないことがあることをご了承いただきたい。

【住民】

台風18号で被害が起きてから今日でちょうど3か月である。被害が一番大きかったのは、アヤマ川の流れる伊達市の工場地周辺の道路だと思う。私の家のあたりも被害は大きく、車庫や物置の中に土砂が溜まってしまった。土砂を玄関前などに出したものの、車の出入りができなくなるため長く置いておくことは難しく、土砂を外に出す度に市に連絡をして引き取ってもらっているが、対応が遅い。

台風によって川の中にもコンクリートや石が散乱している。その撤去も要望しているが、3か経ってもまだ行われていない。川の堆積物に木や草が引っかかり、また洪水になるのではないかと危惧している。自治会で川の整備をしているが、堆積物の撤去は難しい。今後は雪解け水等でまた水があふれるのではないかとと思うので、早急に撤去して欲しい。

また、川の側道で側板がなく1m程低くなっているところがあり、水が溢れるのではないかと不安である。水害の危険性が最も高いところだと思うので、対応して欲しい。

私の家は火災保険に加入していたが、台風は保険の対象外であり大変な思いをした。二度と同じ被害に遇わないように、川の整備をきちんとしてもらいたい。

道路に流れ込んだ土砂が放置され、10月や11月は乾いた土砂が窓や扉から家の中に入る上、洗濯物も外には干せない状態だった。災害後の整備対応もして欲しい。

【事務局】

土砂の引き取りに関して、災害後は車や人手不足により対応が遅れ、申し訳なく思っている。再度連絡をしていただければ、今は業者の手もすいているので早く対応してもらえと思う。アヤマ川は市の河川であるので、順次土砂取りをしていきたい。側板がないのはどこのことか教えて欲しい。

【住民】

ローソンの横で、床屋の向かいである。

【事務局】

ここに関しては確認したい。すぐ希望通りに整備できるとは言い切れないが、雪解けが怖いのは当然なので、もう少し待っていただきたい。

【住民】

財政見通しの歳入歳出がマイナスになっていないことに安心したが、人口の将来展望に関して、生産年齢人口を収入のない高校生から64歳までとしているのは的外れであり、その積算をきちんとして欲しい。10年～20年後のことを考え、伊達市独自のことを考えた収入と、どのような計画でまちづくりをしていくかということにポイントを置かなければ、何も見えてこないのではないかと。

企業誘致やスポーツ誘致等、伊達市の収入に関して何を主産業にするかを考えなくてはいけない。私自身伊達市で育ち、就職で市外へ転居し、退職と共に伊達市に戻ってきた。以前の伊達市の細く短い道路は、都市計画でだいぶ広くなったが、空き家が多いと思う。この点も踏まえてまちづくりを考えなくてはいけない。広がって良くなったところもあれば、依然細いところもある。特に高齢化が進み高齢人口の多いところで、緊急時に救急車や消防車が通れないような区域もまだあるのではないかと。

私は教員であったため、子どもの安心安全を考えてきたが、木が生い茂っていて大人の目線では見通しの悪い公園がある。最近では少子化も進み、遊んでいる子どもを見ることも少な

くなった。公園については、狭さよりも見通しの悪さを不安に思うことがよくある。

外国人観光客を集めよう、サイクリングを目玉にしようという北海道の動きがあるが、伊達市の場合は路側帯が非常に狭い。山下町の北東からの道路は広くなると聞いたが、もっと整備していかなくてはいけないところがある。胆振線跡地のサイクリングロードは、草が生えアスファルトが盛り上がり、快適とは言い難い。夏は多くの人々が利用するため、道幅を拡げて欲しい。ハーフマラソンでも利用すると思うので、市内の道をきちんと見て整備していただきたい。

パイプラインを元町から引っ張っているがあれは将来的にどうなるのか。太陽光発電でやっつけられるのか。また、企業誘致もスポーツ誘致と言いながら見通しが無い。以前は野口観光とマラソン選手たちとの取組をしていたが、いつの間にかなくなったと聞いた。今は大滝区のスキーマラソン場に平昌オリンピック選手の合宿を誘致すると聞いているが、平昌オリンピックが終わった後はどうするのだろうか。無駄金になるのではないかと。計画が立ち消えになったり、3年計画で終わってしまったら、細切れの計画になっているのではないかと。思う。

まちづくりや企業誘致、伊達市の収入をどうするかということを考えていかなければいけないのではないかと。

【事務局】

その通りと思う点が多く、今すぐに取り組めるわけではないが、ご意見としていただく。

空き家問題に関しては、利用法や補助について検討中である。道路の維持管理についても検討していく。北電に関してははっきりとしたことは言えないが、早々に撤退するという話は聞いていない。

【事務局】

生産年齢人口についてはご指摘の通り、中学卒業後15歳で就業している人はほとんどいない上、現在は退職年齢にも幅が出てきていると思う。統計上は配布資料のように示したが、この統計から財政の見通しや将来の税収を出すことは難しく、今後検討してそれなりの数値を出し、総合計画に反映させていきたい。

企業誘致に関しては様々な取組をしており、現在は2社ほど話が進んでいる。伊達市の売りとしては、伊達野菜を全道・全国に向けてアピールしていき、力を入れる予定である。

北電がパイプラインを引いて火力発電が稼働しており、泊原発が停止しているため、北電の発電システムは現在フル稼働している。原発がいつ再稼働するのかという問題もあるが、当面伊達市の火力発電は稼働させていくことになると思う。

【住民】

「太陽の園」は、以前は平屋中心だったのが現在では3階建て等に変わっている。現在は用地が半分ほど残っており、用地が荒れ、施設に空きがかなりあるため、その土地の活用を考えていただきたい。有珠山や駒ヶ岳が見え、非常に眺望のよい土地なので、観光地にできないだろうか。ラベンダー公園のような植物公園や、果物の栽培などはできないだろうか。温泉やホテルを併置したらどうか。第六次総合計画では、眺望を活かす取組が記載されており、「太陽の園」の空き地の活用はそれに匹敵するものだと思う。

国道37号線沿いにある道南バスを境にまちの形態が変わっている。道路の両側60mから100mを商業地域に指定してもらい、商業施設を置くことを計画に盛り込むとまちの形態もかなり良くなるのではないかと。調整区域の土地活用をどう考えているのか教えていただきたい。縮小的な考えばかりだとまちの発展にはならないので、魅力ある伊達市にするためには調整区域の発展に取り組まなくてはならないと思う。

「太陽の園」の眺望を活用した観光開発については、市が20～30年前から『伊達百景』に選定して」などと言っていたが、一向に目に見えない。明確な目標を掲げて欲しい。

【事務局】

「太陽の園」の土地活用については、「太陽の園」が土地が余っていると認識しているの

か、その土地をどう活用するつもりなのかがわからないので、何とも言えない。それ以外の土地に関しては、調整区域内であり今現在開発行為はできない状態にある。調整区域を変えるためには、具体的な検討をしなければいけない。

【事務局】

都市計画区域について、伊達市は登別市と室蘭市と3市の圏域で決定している。伊達市単独で都市計画を変更することは制約があり難しい。ただ、ご意見・ご要望として受け止める。

【住民】

都市計画の方向性を明確にして欲しい。前から計画があるのに、未だに実現していないのなら、何のために記載しているのか。圏域での許認可は北海道であるから、どうにかなるのではないか。

【事務局】

伊達市が都市計画区域を広げようとする、どこかを狭めなくてはいけないので難しい。公園や景観に関しても、なかなか答えは出せない。

【住民】

富良野市は、土地を買収して駐車場とラベンダー公園を作り、それほど費用はかからなかったと聞いた。そこが今では北海道で1位2位を争う観光地になっている。その切り口を作ったのは富良野市である。伊達市もやればできると思う。このような展望がなければ第七次計画も意味がないと思うので、夢のあるものにして欲しい。

【事務局】

ご意見として受け止め、検討する。

【住民】

これまでの計画を見て失望した。第六次総合計画は何も進んでいない。夢を与えて欲しい。

【事務局】

夢のある計画にして欲しいという意見があったが、伊達市には大学等高等教育機関がないこともあり、高校生の多くが就職や進学により伊達市外へ出ていく。そのため、第七次総合計画と並行して「教育振興基本計画」を教育委員会で策定している。計画では、地域について子どもたちに知ってもらい、地域への理解を深めてもらうことで郷土愛や故郷を思う気持ちを持ってもらうことを目的として、伊達市外へ転出しても、将来伊達市に帰って来たいと思ってもらえるような「(仮)伊達学」といった取組について検討している。

【事務局】

教育委員会では来年1年間をかけて、「(仮)伊達学」として組織的に体系化した学びをつくろうと考えている。「(仮)伊達学」では小学校低学年から中学校3年生まで、義務教育の9年間でじっくり伊達市のことを学ぶ。その学びを伊達高校と緑ヶ丘高校にも紹介し、高校でもさらに学びを深めていく。

地域や経済界にも協力してもらい、キャリア教育の一環として、子ども達には実際に伊達市の産業を体験してもらう。特に小学校では、必ず農業体験か漁業体験を取り入れ、その中で伊達野菜の学びも深めていく。今は特に食を通した教育が求められているので、子ども達に体験してもらいたい。

子ども達には伊達市に残ってもらうのが一番の理想だが、一度伊達市外に転出したとしても、将来的には戻ってきてほしい。全員伊達市に残ってもらうという夢のような考えはまだ持てないが、伊達市内に残って伊達市を支えてもらえるような人材育成や、伊達に対して誇りを持てる、愛着を持てる子ども達を育てていきたい。その際には地域住民との関わりが必ず出てくる。まちで会う小学生や中学生がどこの学生かわかったとしても、名前まではわか

らないと思う。登下校時にあいさつ等の声掛けをしてもらえれば、いずれ名前を覚えると思う。そして子どもたちも、今まではただのおじいちゃんおばあちゃんだったのが、お世話になっている〇〇さんになってくるのではないかと思う。いずれにしても、様々な英知を集め9年間の学びの体系化を図っていく。その折にはご意見やご協力をいただければ、子どもたちのためになるのではないかと思う。

【事務局】

子どもはいつの時代も将来の希望だと思うので、第七次総合計画内にもそういった視点をしっかり組み込んでいきたいと考えている。

【住民】

今日いただいた資料では意見を出せない。今日は元市職員がいることもあってよく意見が出ており、その点は素晴らしいと思う。

企業誘致等の様々な話は、これまで議論を重ねてきた中で既に答えが出ているものもあり、方向性等も共有されてきている。特に議会や現在の行政についてはよくわかっている話だと思う。それを初めて聞いたかのような答弁に聞こえてしまうのが、残念でならない。細かい数字は要らないので、少なくとも第六次総合計画がどの程度まで達成されたのか、第一次総合計画から総合計画がまちづくりにどのように役立ってきたのかという資料を用意すべきである。今まで取り組んできた成果があるのにも関わらず、それが示されていないため、何も成果がないように感じてしまう。

胆振線跡地のサイクリングロードについても、議会で何度も話題になっていた。今までも答弁をしており、お金があれば何とかしたいという話もあった。今日また住民の声をいただいたのでこれからまた改めて検討するのかもしれないが、今までの議論がなかったかのような話になっていて、残念だ。これまで様々な意見があり、すでに様々な取組を行っているが、この先取組めるかどうか分からない件については、お金がないからできないと言えば良い。

「太陽の園」の土地利用や「伊達百景」の利用に関して、行政内ではここ数年間話題になっていない。今後取り組むことがないのならば、はっきりと言うべきである。今までできたこととこれからすることをはっきりさせなければ、いくら夢のあることと言っても絵空事でしかなくなってしまふ。

要望は議会でも何度も言っているためここでは言わないが、この懇談会では意見を言える人が限られる。これでは住民懇談会は成り立たないと思う。2日後の東地区の懇談会では少なくともきちんとした資料をつくって欲しいし、説明の中で紹介があったワークショップの意見も話のきっかけとして資料があればいいと思った。方法を工夫しないと、来年総合計画が固まった段階でまた懇談会をするそうだが、せっかくの機会がもったいないと思う。企画財政部でどうかして欲しい。

【事務局】

第六次総合計画の総括は、もちろん第七次総合計画に向けて行っている最中であり、その資料についてはまだはっきりとはまとまっておらず、提示するのは難しい。もちろん住民の意見を聞く上で必要だというのはわかるが、懇談会では現在の伊達市の人口と財政状況を踏まえた上で、何か良い政策はないか意見を頂戴していると理解していただきたい。もちろん第六次総合計画についてはしっかりと総括し、その中で必要なものは継続し、新たに必要なものは加えていく。第六次総合計画の総括にもきちんと取り組んでいく。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

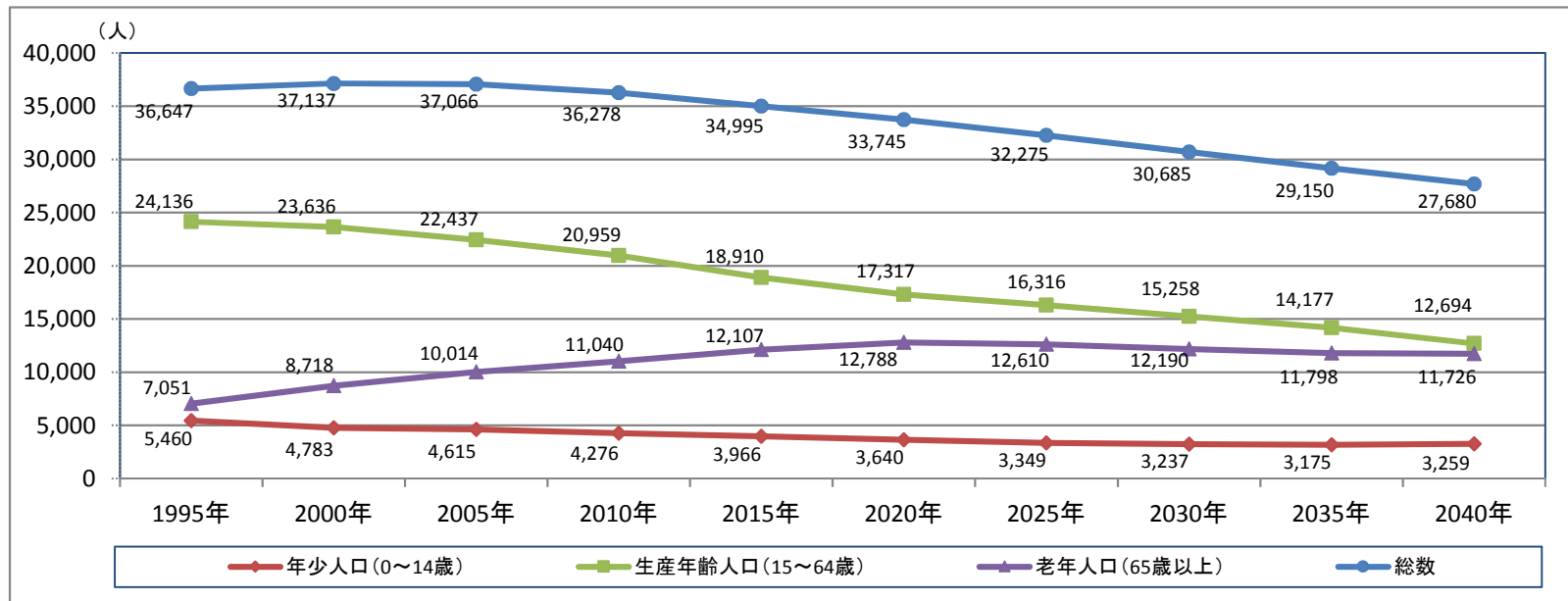
「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

■人口の将来展望

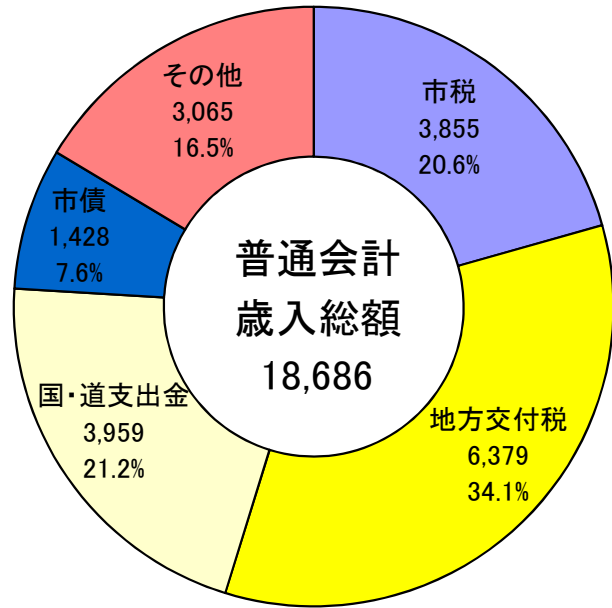
年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」

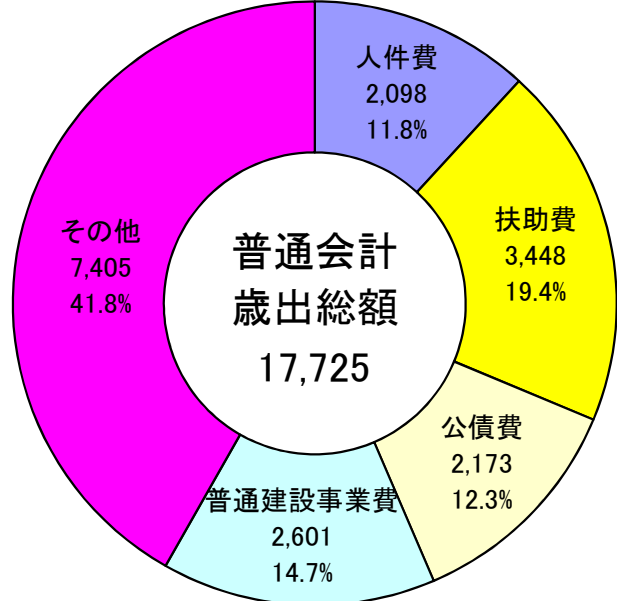


■ 財政見通し

平成28年度普通会計歳入決算 単位:百万円



平成28年度普通会計歳出決算 単位:百万円



地方税及び普通交付税の推計 単位:百万円

